

令和4年度
日本東洋医学会関西支部
三県合同教育講演会
講演要旨集

日時：2023年2月5日 12:00-15:20（現地+LIVE）

会場：千里ライフサイエンスセンター 山村雄一記念ライフホール

担当 日本東洋医学会 和歌山県部会

講演責任者 山田伸（日本東洋医学会 和歌山県部会 会長）

事務局 〒640-8319 和歌山市手平1-5-29

山本眼科医院 山本昇伯

FAX：073-423-7905 E-Mail：mfxds021@yahoo.co.jp

【プログラム】

12：00～12：05

開会挨拶

山田 伸（和歌山県部会 会長）

12：05～13：05

特別講演 1

「感染症の漢方療法」

小池 加能（神楽坂 漢方 有恒薬局）

座長：高垣麻美子（みやま薬局）

13：10～14：10

特別講演 2

「飯塚病院漢方診療科の Covid-19 感染症症例から罹患後症状を考える」

田原 英一（麻生飯塚病院 漢方診療科）

座長：山田 伸（日本赤十字社和歌山医療センター 漢方内科）

14：20～15：20

特別企画

「Long COVID に対して、東洋医学はどう向き合うのか」

症例提示：「Long COVID の治療は難しい～心療内科医の観点から」
西田慎二（にしだクリニック）

臨床報告：「Long COVID に対する統合医療的アプローチ」

田口敬太（泉州鍼灸治療院）

小池先生、田原先生を交えてパネルディスカッション

座長：若山育郎（関西医療大学）辰田仁美（和歌山労災病院）

15：20

閉会挨拶

感染症の漢方療法～傷寒と温病～

小池加能 (ANNEX 漢方三考塾)
(神楽坂漢方有恒薬局)

日本の漢方の基礎となる古典『傷寒論』の序文に「私の身内は元から多く、200 余人もあったが、建安紀年（中国の後漢末196 年頃）から10 年もたたないうちに、その2/3 が亡くなった。10 人の内7 人は傷寒（伝染性の流行病）で亡くなった。そこで私は喪失感に沈み、一念発起し研究を重ねて『傷寒論』を著した。」とあります。

有名な葛根湯も記載がある『傷寒論』には、治療方法が刻一刻変化する病状に合わせて事細かく書いてあります。

養生法として、桂枝湯には「薬力が足りない時には熱いお粥を啜り、気持ちよく汗がかけるように、布団を被って、寝て居なさい。」とまで書いてあります。

COVID-19 は『傷寒論』の第6 条「太陽病（病の始まりで）、発熱して咽が渴き、悪寒の無い者を温病（うんびょう）と為す。もし、已に発汗して身に灼熱感がある者を風温と名づく。」の如く、温病から風温（変化に富む熱病）に当たるのです。

温病は肺の経絡から病邪が侵入するので、喉元の違和感や乾燥感に始まり、喉が渴きます。喉元で感知し適切な治療薬を用いて免疫系を応援出来れば良いのですが油断すると、あっという間に灼熱感のある高熱となります。

高熱は生体がウイルスと戦う為に必要な熱なので、無闇に解熱剤を使用することは、敵の思う壺。頭寒足熱で頭は冷やしても、産熱を応援する必要があります。

本講演では演者の経験したコロナ感染時及び漢方薬のみでの治療経験について傷寒との違いなども合わせてお話しさせて頂く予定です。

赤いかぜと青いかぜ

	赤いかぜ (湿熱邪→温病)	青いかぜ (寒邪→傷寒)	青いかぜ (風邪→中風)
症 状	急な高い熱で赤い顔 冷たい空気や水を好む (口渇) 口や鼻より邪の進入、咽痛 汗はベっとり(ソクソクは少ない)	ソクソクした後に出る熱 頭痛、背中・関節痛、肩こり 襟足に汗なくサラサラ(表裏)	そわそわして微熱 皮膚表面がビリビリ しっとり汗っぽい(表虚)
対 処 法・漢 方 薬	氷枕で冷やす リンゴの搾り下ろし・バナナ・ 梨やレンコン・ゴボウの ジュース 銀翹散など	氷枕で冷やす 本葛湯に黒糖・しょうが汁・ 長ねぎ・しょうが・味噌・卵酒 〈温めて汗をかく〉 麻黄湯・葛根湯など	薄いお粥に梅干し・ よく煮た素うどんなどの少食 〈足湯・十分な睡眠〉 桂枝湯・香蘇散など

ご参考までに

月刊『漢方の臨床』第67 巻・第4号

月刊『漢方の臨床』第69 巻・第6号

【略歴】

- 1966 年（昭和41年）3月 東京都新宿区立津久戸小学校卒業
（大塚恭男先生・矢数圭堂先生は先輩。矢数芳英先生は後輩）
- 1976 年（昭和51年）3月 北里大学薬学部卒業
3月東京文化学園（現新渡戸文化学園）就職
中学・高等学校理科教諭、医学技術専門学校非常勤講師
株式会社寺田調剤薬局入局中に本格的漢方に出会う
- 1982 年（昭和57年）10月 東京都立川市にユーコー薬局開局
- 1986 年（昭和61年）12月 生まれ育った神楽坂に移転 神楽坂漢方有恒薬局開局
現在に至る
- 1988 年（昭和63年） 日本漢方振興会漢方三考塾入塾
寺師陸宗先師・高山宏世先師・原田康治先生のご師事を仰ぐ。

【資格】

- 日本漢方振興会理事ANNEX 漢方三考塾事務局
漢方薬・生薬認定薬剤師
日本東洋医学会々員京都漢方研究会々員日本漢方交流会々員

【著書】

- 『カゼには即効漢方』保健同人社、後に、たにぐち書店
『合格運アップに効く漢方』東京玄文社
『気楽流漢方健康術』
『気楽流漢方薬方術』
『やさしく深い漢方読本』

飯塚病院漢方診療科の Covid-19 感染症症例から罹患後症状を考える

飯塚病院東洋医学センター漢方診療科 田原英一

傷寒論を紐解くと、そこには悪寒、発熱に始まる一連の感染症の流れ、変転、治療法などが示されている。太陽病編に多くが費やされているように、初期治療によりいかに重症化（すなわち陽明病への転入）を防ぐかに重点が置かれていると読むことができる。Covid-19 においてはデルタ株までは入院リスクが高く、オミクロン株に至って、感染力はより高く、重症化は比較的強く抑えられている。この点で感染時の症状もさることながら、感染後に現れることがある罹患後症状がクローズアップされている。同時に、Covid-19 が蔓延するに伴いワクチン接種後の精神身体的問題の発現も問題視されている。

当科は比較的人口過疎の地域であることや、病院として Covid-19 対応チームが準備されたことにより、後方支援（病棟対応、救外担当）に回り、急性期の Covid-19 の治療に当たることは少なかった。しかし最近では罹患後症状やワクチン接種後症状の症例を治療する機会が増えている。

45 歳女性、罹患後症状：全身倦怠感、後鼻漏、嗅覚・味覚障害。柴胡桂枝乾姜湯エキス + 半夏厚朴湯エキスで改善。

55 歳女性、罹患後症状：全身倦怠感、労作時呼吸困難、背部痛。補中益気湯エキス + 柴陷湯エキスで改善

13 歳女性、罹患後症状：関節痛。五苓散加附子で改善。

36 歳男性、ワクチン接種後：頭痛、めまい、全身倦怠感。真武湯合人参湯で改善。

57 歳男性、ワクチン接種後：頭が重い、全身倦怠感。真武湯エキス + 人参湯エキスで改善。

21 歳男性、罹患後症状：全身倦怠感、浮動感、頭が働かない。茯苓四逆湯、加味帰脾湯、八味丸などで改善。

36 歳女性、罹患後症状：倦怠感 めまい 頭痛 気持ちの落ち込み。通脈四逆湯、半夏白朮天麻湯、五苓散末など

比較的軽症のものは柴胡剤を中心とした治療が有効であるが、倦怠感が全面出てくると、温補剤の必要性が出現し、重症例は温補に加え、補気補血、補腎などの考慮が必要である。罹患後症状の発現、重症化の背景には裏寒と水毒の存在が疑われる。

Keyword : Covid-19、罹患後症状、ワクチン接種後、裏寒、水毒

たはら えいち

田原 英一

1967年1月8日生

新潟県糸魚川市出身

平成3(1991)年 富山医科薬科大学医学部医学科 卒業
平成3(1991)年 富山医科薬科大学附属病院和漢診療部医員(研修医)
平成11(1999)年 砺波(となみ)サンシャイン病院(富山県)副院長
平成11(1999)年 博士(医学)取得(富山医薬大乙第283号)
平成14(2002)年 近畿大学東洋医学研究所講師
平成18(2006)年 近畿大学東洋医学研究所助教授
平成19(2007)年 ㈱麻生飯塚病院東洋医学センター漢方診療科部長
平成23(2011)年 宮崎大学臨床教授、大分大学臨床准教授兼任
平成24(2012)年 大分大学臨床教授、長崎大学非常勤講師、産業医科大学非常勤講師兼任
平成30(2018)年 熊本大学臨床教授兼任
令和2(2020)年 富山大学和漢医薬学総合研究所臨床応用部門非常勤講師(客員准教授)兼任
現在に至る

所属学会

日本東洋医学会(専門医、指導医、代議員、医療安全委員会担当理事、福岡県部会長、九州支部長)、和漢医薬学会(代議員)、日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医、指導医)、日本アレルギー学会(専門医)、日本皮膚科学会

受賞

平成12(2000)年9月 第17回和漢医薬学会 学術奨励賞受賞
平成29(2017)年6月 第68回日本東洋医学会 学術奨励賞受賞

著書

高齢者のための和漢診療学(医学書院:共著)、EBM 漢方(医歯薬出版:共著)、漢方診療二項の秘訣(金原出版:共著)
つかってみよう!こんな時に漢方薬(シービーアール:共著)、専門医のための漢方医学テキスト、(IV症候からみる漢方、5全身・精神、D認知症・異常行動、日本東洋医学会:共著)、はじめての漢方診療症例演習編(医学書院:共著)
神経疾患最新治療2012-2014(南江堂:共著)、スキルアップのための漢方相談ガイド 改訂台2版(南山堂:共著)
日本伝統医学テキスト 漢方編(日経印刷:共著)、はじめての漢方治療(診断と治療社:共著)
漢方医学大全(静風社:共著)

第73回日本東洋医学会学術総会「あなたの漢方 わたしの漢方～オンリー1とナンバー1」準備委員長

73 総会 HP



73 総会 facebook



特別企画「Long COVID に対して、東洋医学はどう向き合うのか」

Long COVID の治療は難しい～心療内科医の観点から

西田 慎二（にしだクリニック）

演者は心療内科・漢方内科として診療を行っており、「心療漢方医」の立場から議論を述べたい。新型コロナウイルス感染症後遺症患者には、概ね2つのパターンがある。1つは従来から通院中の患者が感染した場合で、症状の多くは呼吸器症状、味覚障害、倦怠感などである。この場合、柴陷湯、竹茹温胆湯、麦門冬湯など、ときに吸入ステロイド薬などの治療で、比較的すみやかに改善することが多い。もう1つは、他院で後遺症として治療されたが、全く改善がみられないため受診する場合である。このような患者は治療に難渋することが多い。

Long COVID の症状としては”brain fog”に代表される、認知機能や集中力低下などの精神・神経症状、全身倦怠感、筋肉痛、咳嗽・喀痰、動悸、味覚・嗅覚障害、脱毛などである。治療の指針として厚労省から「新型コロナウイルス感染症診療の手引き 別冊罹患後症状のマネジメント」が公開されているが、診療の役には立たない。治療法が手探りの中、後遺症外来では漢方に詳しくない医師が、病名投与的に漢方薬を投与している事が実情である。

さらに状況を複雑にしているのは、「偽性コロナ後遺症」の存在である。呼吸器症状の後遺症はコロナ感染時の呼吸器症状の重症度に比例するが、”brain fog”や倦怠感は重症度に比例しない。また、ウイルス抗体価は感染の重症度を反映しない。よって、明らかな感染の症候は無いにもかかわらず「こんなに辛いのはコロナにかかったからに違いない!」という患者も存在し、これに対して後遺症を否定すると攻撃的になることがある。

なお、Long COVID との類似疾患として、筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群 (ME/CFS) がある。ME/CFS 自体はまだまだ解明されていない事も多いが、様々な研究がなされている。よって Long COVID の治療の参考になるはずである。当日は、ME/CFS や Long COVID で難渋した症例について解説し、私見を述べてみたい。

【略歴】

1993年 三重大学医学部卒業

内科研修の後、関西医科大学心療内科入局。その後九州大学心療内科、佐賀医科大学総合診療部に国内留学

1999年 関西医科大学心療内科助手

2003年 近畿大学堺病院心療内科講師

2005年 大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座助教授

2011年 日赤和歌山医療センター心療内科部部长

2018年 にしだクリニック院長

所属学会：日本東洋医学会専門医・指導医・代議員、東亜医学協会評議員、日本中医薬学会理事、日本心身医学会専門医・指導医・代議員、日本心療内科学会登録医・評議員、日本内科学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医

その他：大阪大学医学博士、関西医科大学非常勤講師、イスクラ漢方奨励賞受賞。著書：「心療内科学-診断から治療まで」（分担執筆）など

Long COVID に対する統合医療的アプローチ

医療法人ロングウッド泉州鍼灸治療院 田口敬太

当院では開院以来、糖尿病性抹消神経障害や化学療法後の末梢神経障害、放射線治療後の口腔乾燥症など、標準治療に補完する形で鍼灸治療を介入している。

当法人の母体である糖尿病内科や、一昨年開院された泉州統合クリニック（漢方内科）と連携しながら統合医療的アプローチを行なっている。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、後遺症で悩む患者を診察する機会が増加した。

当院では、Long COVID を引き起こしやすい東洋医学的タイプ分類と、タイプ別の養生法を患者に指導している。

①痰湿タイプ

- ・鉛のように体が重たい倦怠感
- ・眠気（食後）
- ・湿疹
- ・咳（痰）

②気虚タイプ

- ・倦怠感（息切れ・馬力が出ない）
- ・眠気（常に眠たい）
- ・味覚や嗅覚の障害

③陰虚タイプ

- ・潮熱（夕方から夜間にかけての微熱）
- ・喉の痛み（乾燥）
- ・不安感
- ・脱毛

本講演では、それぞれのタイプ別の養生法と鍼灸治療を紹介する。嗅覚障害に関しては鍼灸治療だけでなくアロマオイルの併用についても説明する。また泉大津市では自治体をあげて後遺症と向き合っている。泉大津市コロナ後遺症改善プログラムについての紹介も行う。

Long COVID に対して東洋医学はどのように立ち向かうのか？その有効な方法は「養生」であると考えます。東洋医学はオーダーメイド治療である。症状だけでなく、人を診ることで患者の生活背景や考え方が分かる。私たちの言葉が患者の行動変容に繋がり、生活習慣が改善すれば必ず Long COVID に立ち向かえると信じている。

Key words: Long COVID・鍼灸・痰湿・養生・行動変容

【略歴】

平成 20 年 4 月 明治東洋医学院 専任教員
平成 23 年 5 月 大阪大学大学院医学系研究科統合医療学講座 特任研究員
平成 30 年 4 月 医療法人ロングウッド 泉州鍼灸治療院 院長
平成 31 年 4 月 高石市スポーツ推進委員
令和 4 年 4 月 一般社団法人日本統合医療セルフケア協会 代表理事

【研究内容】

糖尿病性末梢神経障害
化学療法後末梢神経障害

【論文】

糖尿病性末梢神経障害による両下肢感覚異常に対する鍼治療の効果
糖尿病 Vol. 60 (2017) No. 7 p. 489-497

準備委員

講演責任者 山田 伸（日本赤十字社和歌山医療センター漢方内科）

準備委員

近藤哲哉（関西医療大学）

重河嘉靖（南大阪医療センター）

高垣麻美子（みやま薬局）

高木はるか（和歌浦病院）

辰田仁美（和歌山労災病院）

田中一（きのくに漢方クリニック）

西田慎二（にしだクリニック）

若山育郎（関西医療大学）

事務局

山本眼科医院 山本昇伯

〒640-8319 和歌山市手平 1-5-29